

ピリピ人への手紙 3:10-11 Part1 「苦しみの目的は」

今日の聖書箇所はピリピ3章10-11節です。

使徒パウロが聖霊によってピリピの教会に書いています。

ピリピ3:10-11

10 私は、キリストとその復活の力を知り、キリストの苦難にもあずかって、キリストの死と同じ状態になり、

11 何とかして死者の中からの復活に達したいのです。

私たちが理解できるよう、祝福して下さるように、一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様、この時間、聖霊によって、私たちの心を静め、思考を落ち着かせ、集中できるように導いて下さい。

主よ、私たちの気が散ることのないように。

あなたが今日教えて下さることを、何ひとつ見逃したくないのです。

ですから主よ、どうか私たちを集中させ、集中が維持できるように導いて下さい。

御言葉を通して、私たちのいのちに語って下さるよう祈ります。

イエスの御名によって。アーメン。

今日は、ローマ12:1-2の学び以来、しばらくしていなかったことですが、2つの節を2つのシリーズに分け、2週間かけて学びます。2、2、2。

その理由は、苦しみという問題に取り組むためです。

その中で、“クリスチャンの人生に苦難を許す神の計画”について見ていきます。

始める前に、私は皆さんに対してオープンに、率直に話す必要があるので、私が包み隠さず話す時、気にしないように、気を悪くしないように願います。

さて、ここの御言葉は、私が主との歩みに於いて、個人的に葛藤したそのものであることを真実に告白しなければなりません。

その理由を、最善を尽くして、できるだけシンプルに説明します。

皆さんが私と同様なら、（きっとそうなのではないかと思いますが）今日の御言葉の最初の部分については問題ないでしょう。

私たちの中に、キリストの復活の力に携わりたくない人などいないはずですが。

兄弟、このメッセージを本当に望んでいますか。

なぜなら、これがキリストの苦しみを伴うこととセットになっているからで、それが問題なのです。

まるで、小さな文字で書かれた副作用の説明書きみたいに。

今や、人気のあるトピックとして講壇から話されることは、あまりありません。

敢えて言うなら、この御言葉を人生の聖句としている人は、いたとしても恐らくほんの少数でしょう。

もし存在するならばですが。

カードや手紙にサインする時、人生の聖句をいつも書く人がいますよね。

例えば、「**私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです。**」（ピリピ4:13）

それがここでは、「私はイエス・キリストの苦しみに携わりたいのです！」

「あなた、大丈夫？」

問題は、もう一つの箇所なしに、ここを捉えることはできないということ。

それは、強さと力を作り出すための大変な困難、奮闘です。

私は今日のための準備をしながら、先週、このことについて考えていたのですが、事実、ヤコブや使徒パウロ、他の弟子さえもが、これに関して語っていることに衝撃を受けました。

彼らは基本的にこう言っています。

「私が体験している試練を乗り越えるためにまさに必要なものは、その試練を通してしか得ることができない。」

違う言い方をしましょう。

「私には、持ちこたえるための持久力、経験していることを乗り越えるための忍耐力が必要だ。」
どうしたら、その持久力、忍耐力が得られるのかというと、経験することによってです。
今の試練を乗り越えるためにまさに必要な持久力と忍耐力は、今直面している試練から来る。
それが、パウロがここで言っていることです。
別の言い方では、「イエスの力に与りたいなら、イエスの苦しみに与らなければならない。」
そういうことです。

これに関して、使徒ペテロが**ペテロ4:12-13**で強調しています。

12愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間で燃えさかる試練を、何か思いがけないことが起こったかのように、不審に思っははいけません。

13むしろ、キリストの苦難にあずかればあずかるほど、いっそう喜びなさい。

むしろ、喜びなさい。

ヤコブが言ったことを思い出しますね。

私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。（ヤコブ1:2）

ペテロは同じことを言っています。

パウロが同じことを言っています。

13むしろ、キリストの苦難にあずかればあずかるほど、いっそう喜びなさい。

キリストの栄光が現れるときにも、歓喜にあふれて喜ぶためです。

これが、その力をどのように得るかという方法です。

キリストの復活の力は、キリストの十字架の苦しみ。

これは、クリスチャン信仰の別の逆説で、“上り坂は下り坂”という感覚です。

苦しみは、キリストと彼の復活のパワーを知るための促進剤だと言える。

でも私たちは、「救い主が悲しみや嘆き、苦しみを知っていた」と告げている御言葉に対して、「それは聞きたくない」と悩むのではないのでしょうか。

私も正直に言うと、許されるなら、今日の聖句で苦しみについて教えるよりも、全然違う箇所を教えたいです。

さて、私たちが言及すべき、もう一つの問題。

苦しみに関する今日のテキストに、皆さんが苦しんでいるのは分かっています。

そこで、苦しみがある理由をお話したいと思います。

興味深いのは、使徒パウロが次の12節で言っていること。

ピリピ3:12

私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。

ただ捕らえようとして追及しているのです。

そして、それを得るようと、キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。

彼でさえ、その答えの全てを得ていなかった。

それが、彼が「ただ捕らえようとして追及している。」と言っている理由です。

私たちがこちらにいる間は、苦しみの理由を理解することは多分ないでしょう。

苦しみの目的を理解することはできません。

もっと踏み込んで言うなら、なぜ苦しみがあるのか理解できないから、苦しみの目的を理解しようと駆り立てられるのです。

木曜日の夜の旧約聖書の学びに参加している人は、ヨブ記での苦しみについての学びに苦しみましたね。

ヨブ記の学びは、大変魅力溢れるものでした。

オズワルド・チェンバース（1874-1917）は、ヨブ記に関して見事に解説しています。

興味深いことに、本のタイトルは“Baffled to Fight Better”（巧く戦うための苦難）

「ヨブ記のような書が、多くの苦しんでいる人たちに慰めと忍耐をもたらす。

それはひとえに、苦しみの理由を一切説明しようとしていないからだ。」

全体を通して、（引用しているのではありません）初めから終わりまで、ヨブが疑問に対する答えを得ることはありませんでした。

最後に神が現れ、語られた時でさえ、神はヨブの疑問には答えておられません。
ヨブは、実際、色々疑問があったのですよ。

チェンバーズは続けます。

「苦しみに関連する問題は、それについて、まるで説明がつかないように思えるところから生じる。

天の父が私たちになさることの中には、直接的な説明が全くない時があるのだ。

はかり知れない神の摂理が私たちをギリギリまで試し、合理主義は単にメンタル的な問題に過ぎないことを証明する。

聖書も私たちの常識も、人生の基盤は悲劇であり、理にかなうものではないということに一致している。

私たちの注目すべき全ての問題はヨブ記の中にあるのだ。」

言い換えると、私たちには、そして、この世に於いては、苦しみの理由は分からない。

しかし、苦しみには目的があるのです。

それは神が、苦しみを通して私たちの人生にもたらし、成し遂げられること。

なぜ、苦しみを通ることが必要なのでしょうか。

なぜ、大変な痛みや、大きな苦しみを経験しなければならないのでしょうか。

今日は2つの理由をお伝えしたいと思います。

① 苦しみは、私たちを限界に追い込むため

私にとっては、これがクリスチャン人生に苦しみがあることの大きな目的の一つです。

ある意味、ここから始まらなければなりません。

限界に追い込まれるところから始まる必要があるのです。

なぜなら、自分の限界に追い詰められた時のみ、十字架に行き、何よりも求められている“自分に死ぬ”ということができるから。

だけどその時、私の中の全てがそれに抵抗して、「自分自身を失いたくない。」「自分の限界を認めたくない。」

しかし、パウロが言っているキリストの復活の力を知りたいと望むのであれば、私は自分に死ななければなりません。

キリストの十字架の痛みよりも優先することは絶対にないのです。

復活の力が欲しい！

でも、復活も復活の力も、まず初めに十字架刑がないと起こり得ない。

それは大変な痛みのはずです。

そして、神が私たちを追い込む時、（神はそうされます）人によっては、他の人よりもその状況が長く続くかもしれません。

皆さん、自分でよく分かっているはず。因みに私もその一人です。

時に神は、私たちの長所が弱点となるところまで持って行かれ、そうして、私たちに望んでいる正しいところ、私たちにとって最高のところに導かれます。

なぜなら、その時神は、私たちの生涯を通して、私たちに計画していることを行うことができるから。

これが2つ目の目的に繋がります。

② 苦しみは、へりくだって主により頼むようにさせるため

これが、神が私に教えて下さることの一つで、それは非常に厳しいレッスンです。

つまり、私に謙虚さがなければ、神は力を託すことができないということ。

聖書を通して、次から次へと十分に手本が示されていますが、パウロは最高の例の一つです。

彼はどんなに全てのことで苦しんだか。彼は苦しみました。

そして、パウロが経験した全ての苦しみが、いかにして「もう、自分にできることは何もない」とへりくだり、主により頼む姿勢を生み出したか。

IIコリント12章で、パウロは“この人”について第三者的に語っています。

「その人は第3の天に連れて行かれ、言葉にできないようなことを見せられた。」

「表現しようと、話そうとすること自体が罪になるくらいに凄くて、その人には表現できない。」
「その人が見た、言及することなどとてもできないほどの、あの栄光がこの先待っているのだ。」
それは、パウロが「私はこれを自慢する傾向がある」ということをハッキリと自覚していたから。

II コリント 12:6-10

6 たとえ私が誇りたいと思ったとしても、愚か者とはならないでしょう。

(誇ったところで、愚かではないはずです。)(なぜなら、) **本当のことを語るからです。**
しかし、その啓示があまりにもすばらしいために、私について見ることに、私から聞くこと以上に、だれかが私を過大に評価するといけないので、私は誇ることを控えましょう。

7a その啓示のすばらしさのため高慢にならないように、(高ぶったり、うぬぼれたりしないで、へりくだっているように) **私は肉体に一つのとげを与えられました。**

ところで、そのとげが何であるか書かれていないのは意図的で、私たちには分かりません。
勿論、推測は様々ありますが、それは何かを定義しようとすると大きな間違いを犯すでしょう。
神が知らせないのは、私たち皆が「ああ、肉体のとげがそれなら、私にはその問題はないから、ここは自分には当てはまらないね!」と言いつつのご存知だからだと思います。
神はこれを、私たちがそれぞれの人生に、自由に適用できるようにされたのでしょ

7b それは私が高慢にならないように、私を打つためのサタンの使いです。

明らかにパウロはこのとげに苦しんでいました。
それが何であれ、彼は何かには昼も夜も苦しんでいたということです。
あなたも自分の人生に当てはめてみてください。
パウロは拷問され、苦痛を与えられ、非常に苦しみ...神はそれをお許しになった。

8 この使いについて、私から去らせてくださるようにと、私は三度、主に願いました。

3度といっても、そのままの意味でないのは明らかで、これはコメンテーターたちが言うように言葉のあや。
パウロが3度祈って、4度は祈らなかったというわけではありません。
むしろ四六時中祈り続け、非常に具体的に「それを取り去ってください」と主に3度懇願しました。

9a しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。

わたしはそれを取り去らない。わたしの恵みはあなたに十分である。なぜなら、
わたしの力は(出ましたよ、この言葉、力!)弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。
「つまり、神は私たちを待ち受ける天の栄光をパウロに見せた上で、その肉体のとげによって、苦しみや苦痛の中に置いておかれたということ?

神の力は弱さのうちに完全に現れるということを、彼に知らせるために?」
そうです。

皆さん、パウロは大変強い個性の持ち主だったことを知っていますね。
仮に、強い信念を持った男がいるとするなら、それは彼のことです。彼は実行しますから。
パウロが行く所どこであれ、神は彼のあらゆる行動を祝福しました。
この男には何かがあるのです。

木曜日の夜、詩篇78篇でこれについて話しました。

私自身の経験ですが、時として、祝福と繁栄は貧困と弱さ以上に試練になり得ます。
なぜなら、自分の貧困と弱さの中にいる時は、主により頼まなければと思いますが、豊かに繁栄している間は、自分がしたことや達成したことに頼り、そこに信頼を置きがちになるから。

9b ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

10a ですから私は、キリストのゆえに、弱さ、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜んでいきます。

私は人生に於いて、こんな風に言えるかどうか分かりません。
侮辱されて喜ぶなんて、絶対にありません。
あなたは喜びますか。苦難を喜びますか。私は喜べません。

私は苦難を喜ばないし、文句を言います。あなたもそうでしょう。

迫害や困難はどうですか。

苦難や困難を逃れるために、どれほどの労力、時間、資金、エネルギーを費やしているか考えてみてください。

私たちは苦難や困難を避けるために、全くもってあらゆる限り可能なことを試み、行います。

しかしそうすることは、パウロの経験とは異なるのです。

10b というのは、私が弱いときにこそ、私は強いからです。

これがパウロの自慢であり、喜ぶこと。

これは、人間の本質の全てに対抗します。全く正反対。

私は強くなりたい。でも、その強さを持つことができない。

私には力が必要だ。でも、その力を持つことができない。

主の苦しみの杯をしっかりと味わうまでは。主の苦しみに与るまでは。

これが人気のある教義でないことは分かっています。

しかし、これが真理なのです。

「主の力と権威の中にある強いクリスチャンを示して下さい。」

私は大変苦しんだクリスチャンを示しましょう。

「痛みや苦しみの中で、喜びの杯を味わっているクリスチャンを示して下さい。」

私は使徒パウロのような、主を知るといことがどういうことを理解しているクリスチャンを示しましょう。

しかし、使徒パウロが「キリストを知りたい」と言っているのは、ちょっと興味深く、奇妙ですらあります。

私は、キリストとその復活の力を知り、キリストの苦難にもあずかって、キリストの死と同じ状態になり (ピリピ3:10)

「パウロ、何を言っているのですか。キリストを知らない？」

もし、パウロがキリストを知らないなら、私はキムチの中に撃沈です！

だって、パウロですよ！主を知りたいだなんて...

先週、スポルジョンの本を読んでいたのですが、非常に良かったので、書いてあることをいくつか紹介したいと思います。

皆さんの何人かは「もう勘弁して。今日の話のどこに希望があるのよ！」と思っているでしょうから。

皆さんが祝福されますように。

チャールズ・スポルジョン (1834-1892) は、肉体的には重症の痛風で、また精神的にも重度の鬱病で、大変苦しんだ人でした。

私が指摘したいのは、彼の息子が「父の激しい苦しみが、彼の偉大なメッセージである」と言ったことです。

スポルジョンは、彼を知る人にとっては非常に力強い伝道師で、当時、彼のように生きた人は本当に稀でした。

しかし、その力強さは、彼の苦しみに相対するものだったのです。

それが、今日のテキストでパウロが話していることです。

息子の言葉を紹介しましょう。

「父のように伝道した人は誰もいなかった。

尽きることのない多様性、ウィットに満ちた知恵、激しい宣言、愛の祈り、そして多くの資質を伴う明快な教え。

少なくとも私の中では、父は“講壇のプリンス”(The prince of preachers) だと言える。」

スポルジョン自身の苦しみに関する引用を以って締めくくります。

「私たちの大半が気分性の反応に襲われて、快活かと思うと、しばらくすると落ち込んでしまったりする。

強さはいつも精力的ということではなく、知恵が常にあるわけでもない。

勇敢さは精神的強さとは限らず、楽しさが幸せでないこともある。

傷に気づかずに心身を消耗させて労している、強くて不屈な精神の持ち主である男たち (men of iron) は、あちこちにいるかもしれないが、たとえ鉄のように強くあっても、確実にサビに悩まされている。

主は普通の男たちに、自分が塵にすぎないことを分からせるのだ。

重度の鬱を引き起こす霊について、私の最も苦しい体験から分かったことは、鬱になっている期間はその霊にとらわれているということ。

それは、決して稀なことではない。

私は自分の考えを伝えれば、信仰の兄弟たちが慰められるかもしれないと思った。

若者たちは、鬱に陥っている期間に起こっている奇妙なことを受け入れないかもしれない。

しかし、ひどく落ち込んでいる人たちは、太陽は頭上に燦々と輝いていたが、自分はその光の中を歩いてはいなかったことを知るだろう。

その力（興味深い言葉ですね）、鬱の力は尋常ではなく、自分はもう価値がないと考えてしまう。

あなたがたの確信を投げ捨ててはいけません。その確信には大きな報いがあります。（ヘブル10:35）

たとえ敵の足があなたの首を踏みつけようとも、立ち上がって敵を倒すつもりでいよ！

現在の重荷を、過去の罪、未来への恐れと一緒に主に委ねよ！

主はご自分の聖徒を見捨てることはない。

その日その日を、その瞬間を生きよ。

敢えて言うなら、神の深い愛は、全ての人が神に立ち返ることを願っている。

そのために、時おり、いや頻繁に、私たちが限界に追い込むこと、それが神に可能な唯一の方法なのだ。」

私たちが降参して「主よ、もうどうしようもありません。」「どうすればいいかわからないのです。」

「もう耐えられない。」「この苦しみはひどすぎる。」と言う時、主が何と言われるかを想像します。

「そろそろ、いい加減にしないか。待っていたんだよ。」

「あなたのことをずっと思っていたのだ。あなたとの親密な時間が恋しかった。」

「わたしは、あなたがとても傷ついた時のことを知っている。

あなたは砕かれることに価値を見出さないだろうが、わたしはあなたを砕いてでも、永遠の価値を優先する。」

「わたしはあなたが願った祝福を与えることはできない。

まず最初にあなたを砕かなければ。祝福の前には、必ず砕かれる必要があるのだ。

あなたもヤコブと同じように、わたしと格闘してきたね。かなり良い闘いだ。あなたもかなり強い。

そしてあなたも、ヤコブのようにわたしに懇願した。

私はあなたを去らせません。私を祝福してくださらなければ。（創世記32:26）

わたしの答えはこれだ。『あなたを砕くまでは、わたしは祝福できない。』

だが、一旦あなたを砕いたなら、わたしが砕かない限り決して知ることができない形でわたしを知る。

わたしは心砕かれた人、悔い改めた人の近くにいます。」

あなたが神ととても親密だった時を思い返すなら、それは、非常に奮闘している時、大変な苦しみの時ではなかったですか。神以外、他に何もなくて。

そこであなたが知ったことは、神が必要の全てであるということ。

それが、主が望んでおられることです。

神はあなたを愛している。

そして、妬んでいる。それはあなたのためにです。

神のあなたを思う気持ちを、イザヤは「それは数えることができず、底知れず、計り知れない。」と言いました。

計り知れないと言え、もしあなたに可能であれば、（不可能ですが）この世の全ての海辺の砂を数えて下さい。

宇宙の星の数も同様に数えられません。

もし、数えることができるなら、神がどれほどあなたを思っておられるか、数えることができるでしょう。

神のあなたへの思い。神はあなたを愛している。

神は冷酷ではありません。

逆境が襲いかかっている時、苦しみが絶えず付きまとっている時、常に痛みに苛まれている時、神は知っておられ、見て、心を痛めておられる。

そしてあなたは、経験しているその苦しみを通して、神がこれからなされることをもうすぐ見るのです。

祈りましょう。

主よ、これは非常に厳しい教えです。

あなたの砕かれた体と、流された血と、十字架の苦しみを語りながら、ペテロのことを思います。

厳しい教えの直後、大勢が去って、あなたが尋ねたのは、「**あなたがたも離れて行きたいのですか**」(ヨハネ6:67)

ペテロの返事は「**主よ、私たちはだれのところに行けるでしょうか。**」(ヨハネ6:68)

主よ、私たちの返事もそうあるべきです。

「主よ、私たちはだれのところに行けるでしょうか。あなたは永遠のいのちのことばを持っておられます。」
(ヨハネ6:68)

主よ、まず死ななければ、いのちに与かれないことを私たちは知っています。

よみがえりは、十字架刑の後に起こるのですから。

復活のいのち。主よ、感謝します。

イエスの御名によって。アーメン。

~~~~~  
**「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにすることはならない。」**ヘブル4:7

メッセージby JD Farag牧師

カルバリーチャペルカネオへ<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi